



必要なサービスを安定的・継続的に提供するため

事業継続計画（BCP）を策定しました（一部抜粋）



基本方針

- ・自然災害、人為災害、及び感染症等の発生時において、BCP（事業継続計画）に基づき、人命の保護を最優先しながら事業の継続と復旧の早期化を図る。
- ・三田市と連携し被災者支援の拠点となる（災害時等における支援協力に関する協定に基づく）。

地域の避難所機能との両立

- ・事業の継続と避難所の運営は、共に立地環境が安全であること、構造部材の耐震性や非構造部材の耐震対策、及び運営体制などの安全の確保が前提となる。
- ・上記を満たし、かつ三田市の要請がある場合は、営業時間内における警戒レベル4「避難指示」発令時に一時避難場所を提供する（但し、大原事業所のみ）。
- ・更に、必要な場合は炊出し等による救援活動を実施する（但し、大原事業所のみ）。
- ・一方で、被災後も障害福祉サービスを継続しその全面的な再開を早期に実現するため、救援活動、事業継続、及び復旧活動が並行する際の事業所ごとの計画を予め策定する。

被害想定（BCP発動条件）

	地震	大雨/洪水浸水	感染症	人為災害
発動	震度5弱以上	警戒レベル4「避難指示」	職員、利用者の罹患	不審者の発見
頻度	数年に一度	毎年	毎年	企図的な不審者への対応

優先する業務（発災当初）

救護	安全確保	救急搬送（事案発生時には最優先）、避難等
看護	処置、服薬管理	被災によるケガ等の処置を含む
介護	トイレ・身辺介助 水分補給・衛生管理	
食事	食事提供（介助）	炊出しの実施、給食の早期復旧
相談支援	被災利用者対応	計画相談支援事業

- ・縮小する業務 施設外就労支援・送迎（但し、相手先企業や道路状況による）
- ・中止する業務 外出活動、施設外での自立訓練、入浴介助、イベント・地域交流活動

利用者さんがいつでも、どんな時でも安心して過ごしてもらえる施設になるよう、職員に周知し、必要な訓練や備品の整備等を実施していきます。

風後援会からご入会のお願い

社会福祉法人風後援会は、障害者の自立と三田わくわく村の発展を願って平成7年に発足し、寄付活動や理解啓発活動を進めています。

毎年皆様のご入会（ご寄付）により、送迎車両の購入や雨よけ上屋の整備など、利用者の皆さんの活動環境整備を進めています。

今後、一層活動の輪が広がりますよう本会の趣旨にご賛同いただき、ご入会賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、今年度より事業所等のみなさん方にもご支援いただきたく賛助会員の入会をお願いしています。

個人年会費 10 1,000 円
事業所等賛助会費 10 3,000 円 振込先は下表のとおりです

金融機関	支店名	口座番号
ゆうちょ銀行		01110-3-66308
三井住友銀行	三田支店（店番 391）	普通 3808145
三井住友銀行	ウツェタウン出張所（店番 395）	普通 3120072

名義は全て『社会福祉法人風後援会』です

【お問い合わせ】
「風」後援会事務局 三田わくわく村大原事業所内
〒669-1515 三田市大原梅ノ木 1546-5
☎079-564-0909

風後援会より

いつも風後援会をご支援いただきありがとうございます。令和6年度風後援会総会並びに研修会を下記の日程で開催いたします。たくさんのご参加をお待ちしています。

日時 6月1日（土）
13:30~15:30
場所 三田わくわく村
大原事業所 食堂
内容 定期総会
研修会（内容は未定）

職員紹介

4月より大原事業所で勤務する事になりました大畑です。利用者さんの事を早く覚えて仲良く頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



大原事業所・生活介護 大畑 悦子

これからの予定

- 4/20(土) 有馬富士フェスティバル(バザー-出店)
- 5/16(木) 事業所交流ハイキング
- 5/18(土) まちなみガーデンショー(バザー-出店)
- 6/1(土) 13:30 風後援会総会と研修会

わくわく通信

発行 社会福祉法人 風
障害福祉サービス（多機能型）
三田わくわく村

〒669-1515 三田市大原 1546-5
(TEL)079-564-0909
(FAX)079-564-8500
(e-mail) sanda.wakuwakumura@giga.ocn.ne.jp
(Hp アドレス) <http://sandawakuwakumura.com/>

入所おめでとございます！ 5年ぶり事業所合同での開催 入所式

この冬は暖冬といわれていましたが、3月末には雪がちらつく日もあり桜の開花が遅れました。

それでもちらほらと開花が始ってきた4月2日に令和6年度三田わくわく村入所式が大原事業所において、久しく事業所合同で行われました。



自立訓練

自立訓練

全員で記念撮影

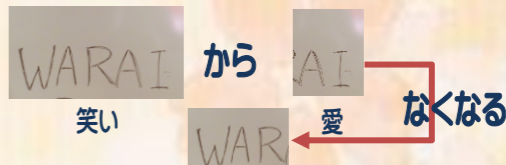
保護者会長挨拶

利用者さんの歓迎の言葉

今年度は、大原生活介護事業に1名、すすかけ台自立訓練事業に2名の方をお迎えし、合計114名でのスタートとなりました。

式では、わくわく村より先輩の皆様からの歓迎の言葉や、施設長からの「愛」をテーマにした激励の言葉、卒業された学校からの温かい祝辞が紹介されました。

新入所の皆さんは少し緊張されていましたが、先輩たちを前に元気に挨拶をされていました。

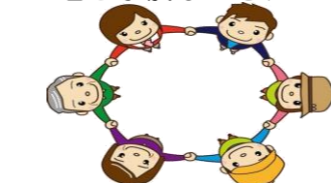


WARAI(笑い)からAI(愛)がなくなるとWAR(対立・争いごと)になります

入所のみなさんは、環境が変わり不安なこともあると思いますが、1日でも早くみんなと良い関係性を作り、楽しくわくわく村に通えるよう、職員一同頑張ります。新しい出会いに乾杯！！

能登半島地震へ義援金贈呈

三田市社会福祉協議会を通して、三田わくわく村職員親睦会より能登半島地震の義援金を送りました。地震発生から3ヶ月が経ちましたが、今もなお多くの方々が避難生活を余儀なくされており、被害の大きさを再認識



障害のある方をはじめ被災された方々の支援に少しでも役立ち、日常生活が1日でも早く戻ることを職員一同願っています。



三田わくわく村の1日を「わくわくええねん」の曲に合わせて上映



親睦会会長より三田市社会福祉協議会会長へ贈呈

令和6年度活動方針

この1年を顧みますと、世界的にはロシアによるウクライナ侵攻、日本では物価の高騰や原油高が続いており、昨年度と大きな変化は見られていません。しかし、5月からは新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、人の流れが徐々に戻り、観光地では外国人の姿を見るようになりました。わくわく村も4年ぶりに1泊研修旅行やクリスマス会の開催、夏祭りから移行した秋祭りを盛大に事故なく実施することができました。

令和5年9/14~9/15
志手原事業所・一泊研修旅行
(京都旅行にて)



ゆかたを着て京都市内を散策しました

令和5年12/14
全事業所合同 クリスマス会(サンパレス六甲にて)



桜を見ながらのウォーキング(武庫川にて)

わくわく村は今年度で創立27年となり、18歳で利用を開始された方も45歳となります。このように、わくわく村でも高齢化が進んでおり、ここ数年で入所施設へ利用変更された方もいらっしゃいます。今後もこの傾向は続くと思われ、わくわく村に求められている事やより魅力あるサービスを具体的に提供していくために、以下の事業を進めて参ります。

- わくわく村の検討課題を調査・研究する6つのプロジェクトについては、まずBCP(事業継続計画)が策定出来たことから今後は、利用者・保護者・職員へ内容を周知していくと共に計画に基づく訓練や備蓄品、その保管場所の準備を進めていきます。残りの5つのプロジェクトについては、調査・研究の最終年度とし、年度末には2年間の委員会活動を集約した報告書を作成します。
- 広く職員に業務等に関する提案を奨励し、提案内容の実現を図る事により、職員の法人運営への参画意欲の高揚及び業務の効率化を図り、利用者サービスの向上に資することを目的に職員提案制度を設けます。
- 日常生活または社会生活の支援を必要とする志手原校区内の住民に対し、需要に応じた日常生活支援(買い物の移動支援等)サービスを4月から実施するため、「すけっと志手原」の構成員として参画します。
- 現行のパンフレットは内容等の情報が古くなっており、情報化(IT化)も含め、見やすく利用しやすい新しい広報媒体を作成し次期運営計画(令和9年度)の施策検討要因として活用します。
- わくわく村は強度行動障害者の利用が26名(全体の23%)と非常に多く、大原事業所生活介護事業では46%となります。そのため、支援力の強化と受け入れを促進するための研修の受講を計画的に進めていきます。また、基幹相談支援センターを中心に、三田市内の福祉サービス事業所の支援力向上と社会資源を広げるため、発足予定の強度行動障害者支援者事業所連絡会(仮称)へ積極的に参画していきます。
- 工賃増に向けて、施設外就労や農福連携の拡充、製菓品の魅力と販売力向上などを進めていきます。
- 新しく総務課職員を中心とした政策会議を設置し、経営の健全化と人事管理、職員の育成、情報・広報の魅力向上等の法人が抱える懸案事項に対応していきます。



最後になりましたが、令和5年度はわくわく村で車椅子利用者の方が骨折する大きな怪我をする事故がありました。車椅子利用者の方を乗車させる際に、職員間の連携、支援業務のミスにより、車椅子が動き出し転倒したことによるものでした。

全職員がこの事故を重く受け止め、事故原因の究明と対策、また、車椅子利用者への注意すべきこと、乗降時の注意事項など研修を重ねました。

職員の意識によるものは、時間の経過に伴い薄れる場合があります。このため、定期的な注意喚起を行うと共に減速帯の取り付けといった物理的な整備により事故を未然に防げるよう努めました。

安全で安心して利用していただけることが福祉サービスの最低条件となります。利用者の高齢化や重度化に対応するため、なお一層職員のスキル向上と細心の注意を傾けて参ります。

今後もみなさんから安全で安心して利用して頂けると共に魅力あるサービスが提供できるよう職員一同努めてまいりますので、ご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。



設置された減速帯

施設長 奥 貞晴

令和6年度職員配置

経営・管理者

理事長	西田 孝夫
参与	長田 武彦
施設長・理事	奥 貞晴
参与・事務長	番庄 孝夫

大原事業所

生活介護・事業所管理者	家次 寛治
総務課課長補佐	久保田 智文
生活介護リーダー	谷村 奈智
相談支援・事業所管理者	坂本 慶顕
相談支援所長補佐	高原 亜理沙
放課後等デイサービス事業所所長補佐	阿部 福美

志手原事業所

事業所管理者	小田 聖子
--------	-------

本町事業所

事業所管理者	石橋 悠吾
就労継続支援B型リーダー	高辻 京

すすかけ台事業所

事業所管理者・所長	田川 みゆき
所長補佐	似吹 かおり

三田わくわく村での感染予防

新型コロナウイルスが5類に移行して1年が経過しようとしています。2020年から新型コロナ対策を中心に行ってきた結果、現在コロナの感染数の減少と共に麻疹や季節問わずインフルエンザなど感染症が発生しています。今年度も感染対策が必要であり、障害者福祉施設の特性を考慮して実施していきます。

感染対策

- 手洗い(手洗い後の手指消毒)
- 検温
- 利用者及び職員のマスク着用
- 施設内の消毒
- 食事座席の間隔をあける(フィジカルディスタンス)
- 3密の回避と換気
- ワクチン接種の推奨
- 抗原検査(兵庫県の無料検査実施期限までの継続)

令和6年度予算について

今年度のわくわく村を運営していく予算については、令和6年度は国の介護報酬単価の改定等により、収入が減る一方、職員の処遇を改善したり、車両の更新や防災備品の整備等により支出もふえる状況ではありますが、収入と支出の差額は、中期運営計画の水準を確保しており、健全な施設の運営を維持できると考えております。しかしながら、現下の厳しい社会情勢等を見ますと決して楽観できる状況ではないことから、今後も収入の確保や経費節減による支出の抑制に努力してまいります。

科目	R6年度予算(a)	R5年度決算見込(b)	増減(a)-(b)
就労支援事業収入	14,418	13,107	1,311
障害福祉サービス等事業収入	303,534	311,615	-8,081
経常経費寄附金収入	350	350	0
その他	1,755	17,55	0
事業活動収入計	320,060	326,830	-6,770
人件費支出	200,787	190,896	9,891
事業費支出	35,796	31,919	3,877
事務費支出	32,412	32,822	-410
就労支援事業支出	14,418	14,172	246
事業活動支出計	283,413	269,810	13,604
事業活動資金収支差額(1)	36,647	57,020	-20,373
施設整備等収入計	1,164	2,751	-1,587
施設整備等支出計	10,700	8,446	2,254
施設整備等資金収支差額(2)	-9,536	-5,695	-3,841
その他の活動収入計	0	0	0
その他の活動支出計	12,736	12,736	0
その他の活動資金収支差額(3)	-12,736	-12,736	0
予備費支出(4)	5,000	0	5,000
当期資金収支差額合計(1)+(2)+(3)-(4)	9,375	38,589	-29,214
前期末支払資金残高	271,947	233,358	38,589
当期末支払資金残高	281,322	271,947	9,375

単位:千円、端数処理を行っています。